

令和7年度
世界農業遺産小学生作文コンクール
入選作品集



国東半島宇佐地域世界農業遺産 Kunisaki Peninsula Usa GIAHS

世界農業遺産小学生作文コンクールについて

1 …目的

次代を担う小学校第5学年及び第6学年を対象とした作文コンクールを実施することにより、広く世界農業遺産に対する関心を高め、理解を深める。

2 …課題

「私のふるさと世界農業遺産」(題名は自由)

3 …応募数

国東半島宇佐地域内（豊後高田市・杵築市・宇佐市・国東市・姫島村・日出町）の小学校 23 校より 137 点

最優秀賞

豊後高田市立戴星学園……………6年 城戸 夢築 2
「世界にはこれるしいたけ作り」

優秀賞

杵築市立護江小学校……………6年 山崎 翔 4
「知ることの大切さ」

国東市立志成学園……………5年 糸永 結菜 6
「わたしの家のしいたけづくり」

入選

杵築市立大内小学校……………5年 小河原瑚桃 8
「山と海とみんなと」

杵築市立大田小学校……………5年 佐藤 冬生 10
「ぼくのふるさと」

豊後高田市立真玉小学校……………5年 三村 隼典 12
「大分農業いさん作文コンクール」



最優秀賞「世界にほこれるしいたけ作り」

きど むつき
城戸 夢築（豊後高田市立載星学園 6年）

4年生の社会科の時間に「大分のしいたけは日本一」という学習をして、私はうれしい気持ちになりました。私の祖父がしいたけを栽培しているからです。

「じいじ、私も行くよ。」

と言って、よく山に連れて行ってもらっていました。

山へ行くと、祖父があけたクヌギの穴に少しひべたべたするたねごまを差し込み、金づちでたたいていきます。細いほど木は、私でも運べます。ほど木を運ぶとき私の足もとは落ち葉でふかふかしています。祖父は太いほど木もどんどん井形に重ねていきます。次に山に行くときは、ほど木を立てかけていきます。一番楽しいのは、収かくするときです。でも、こまうちをして2年たったあとです。

おいしいしいたけを食べられることは、私にとって当たり前だったから先生に、「国東半島のしいたけ栽培は、世界農業遺産なんですよ。」と、言われた時には驚きました。そして、どうしてそんな評価を受けているのか調べてみたくなりました。

両子山のふん火によってできた国東半島は降水量が少なく水不足になってしまう土地だったそうです。そのため、1200以上のたくさんため池をつくり、山頂にクヌギを植えました。それにより豊かな水稻栽培ができる土地になったことがわかりました。クヌギ林がしいたけを育てているだけではなく、おいしい米づくりにつながっていることは意外でした。水不足解消だけの働きではないこともクヌギ林のすごいところです。クヌギは落葉広葉樹です。たくさんのドングリが実ります。この恵みを求めて、多くの動物が集まります。樹液には虫たちも集まります。集まつた生き物のフンや死がいは、落ち葉とともにくさっていって、土の栄養に変わります。クヌギの実や葉が森の土を豊かにしています。それだけではありません。しいたけのコマを打つために切った枝も、たくさんのしいたけを生産した後には土にかえっていきます。でも、切られたクヌギは、15年ほどたつと若木に育ち、またしいたけを育てるすることができます。クヌギに集まる生き物の力で土が肥えて、若木が育つことで多くの生き物が集まるという風に、ぐるぐるサイクルしていることがわかりました。そのサイクルの中に原木しいたけ作りが加わります。そのしいたけは日本一です。高温多湿というしいたけ栽培に適した気候や水を大切にしなければならなかった地形を考えると、昔の人の知恵に感心します。そして、それを守り続けてい る祖父を改めてほこりに思います。

重いほど木を運ぶことなど大変かもしれません、世界にはこれる原木しいたけ作りをこれからも祖父と一緒に守っていきたいと思います。



優秀賞「知ることの大切さ」

やまさき
山崎 翔 (杵築市立護江小学校 6年)

「木が食料を産むってどういうことだと思う。」

先生にたずねられた時、ぼくはピンときませんでした。クラスの友達と話している中で、木を育てることが何かしらぼくたちの生活に影きょうがあるのではないかという考えが出たとき、「世界農業遺産」ということばを知り、興味をもったぼくは教室にあった資料を読むことにしました。

世界農業遺産とは、世界的に重要な地域として国連の食料農業機関が認定するもので、ぼくたちが住んでいる大分県、国東半島宇佐地域も認定されていることを知り、とてもほこらしく、うれしく感じました。そして主にクヌギ林とため池が育む大きな循環システムがあることも知り、すべてのものが一つにつながって、関わり合っ

ていることに、とてもおどろきました。

ぼくたちは、3・4年生の時、学校の近くにある守江わんに行ったことがあります。守江わんには干潟が残っていて、カブトガニをはじめ、たくさんの生きものが生息している豊かな海です。観察をすると、干潟には、たくさんのカニや貝などがいました。「生きた化石」といわれるカブトガニも見つけることができて、とてもうれしかったです。カブトガニのたまごも見つけることができて、本当に豊かな海だと感じました。

しかし、そんな守江わんでも、カブトガニが年々減ってきていることを観察のときにきいて悲しくなりました。干潟に上流から土が流れ込んでいて積もっていることもきいて、干潟に住んでいる生きもののことが心配になりました。今回、この「木が食料を産む」の資料を読んだとき、この干潟の環境の変化は森とつながっているのかもしれないなと感じました。久しぶりに守江わんに行ったとき、ペットボトルのごみなどが散乱していて悲しくなりました。そして、このままではいけないと強く思いました。

「木が食料を産む」の資料の中で、印象に残ったことばがあります。それは、「長年かけて先人たちが築いたもの」を「僕たち私たちが受けついで育てる『輪』」というものです。一人一人の行動で、環境は良いものにも悪いものにも変わります。ぼく一人の力は小さなものだけれど、一人一人が行動にうつしていけば、昔から受けついできたものを未来につなげていくことができると思います。

そのために、ぼくは、まず「知る」ことからはじめたいです。ぼくは、守江わんのことはくわしくなったけれど、そこにつながる森のことはあまり知りません。知ったことは、どんどん友達に広げて、みんなで自分たちの住むまちについて考えていきたいです。



優秀賞「わたしの家のしいたけづくり」

いと なが ゆい な
糸永 結菜 (国東市立志成学園 5年)

わたしの家は農家です。しいたけや米を作っていて、小さいころから仕事の手伝いをしてきました。わたしの父と母、おじいちゃん、おばあちゃん、仕事仲間の人といっしょに、こまうちをしたり、しいたけの収かくをしたりしてきました。最初に手伝った時は、長そで長ズボンで暑いのがいやだったし、虫がたくさんいて、すぐ手伝いをあきらめしていました。ですが、自分にもできる手伝いを何かしたくて、乾そう庫の手伝いを主にするようになりました。収かくしたしいたけを、乾そう庫にならべるのが楽しくて、ほぼ毎日、乾そう庫の手伝いをしました。今でもしいたけの時期になると乾そう庫の手伝いをしています。収かくも手伝えるようになりました。

わたしは、一度だけしいたけの品評会に行ったことがあります。わたしの家以外のしいたけ農家の方もたくさんいて、出品されているしいたけは、どれもとてもきれいで立派でした。特賞や一等に選ばれたしいたけは、もっときれいでした。わたしの家のしいたけも選ばれたことがあります。賞状がたくさんあります。わたしの家のしいたけは、自慢のしいたけです。

学校の授業で、国東市のしいたけづくりは「世界農業遺産」に認定されていることを学びました。わたしはどうして国東市のしいたけづくりが認定されているのだろうと疑問に思いましたが、学んでいくうちにその理由がわかりました。国東市では、クヌギ林を活かしてしいたけを育てるという昔ながらの知恵と工夫が今も続いています。

国東市では、しいたけづくりの原木として、クヌギがたくさん植えられてきました。クヌギの木は切っても切り株から新しい芽が再生するため、木を守りながら何度も利用できます。育てられたクヌギの木を切り、ほど木にしてしいたけを育てていきます。再び育ったクヌギの木は葉を落として、土を肥やしていきます。わたしの家のクヌギ林も、そうなのだと思うと誇らしいし、とてもすごいです。

世界農業遺産に認定された国東市のしいたけづくりは、自然を守りながら農業を続けていく大切さを教えてくれます。わたしの家の仕事もその一部だと思うとともに誇らしいです。わたしの家は、しいたけもお米も育てているので、どちらも手伝っていきたいです。そのためにも、もっとしいたけづくりのことを知るために学んでいきたいです。将来は、しいたけ農家について、父と母を支えていきたいです。



入選「山と海とみんなと」

おがわら こもも
小河原 瑞桃（杵築市立大内小学校 5年）

「木が食料を産むって本当なの」「森が循環しているって何」私は、半信半疑で、先生に渡された資料を読んでいました。資料「木が食料を産む」で、森は循環し、様々なところに利用されているだけでなく、山やその木々が海を豊かにしていることが分かりました。それを読んだ時、あまり実感はなかったのですが、気になって授業でさらに調べた時に、関連したサイトの「今も漁師たちは山に木を植える」という記事をみておどろきました。それは、杵築の牡蠣の漁師が、海の環境のため、おいしい牡蠣を育てるために、山に木を植えているという記事でした。これを読んで山と海のつながりを強く実感しました。海で仕事をする人は、海を大切にするためいろいろなことを考え工夫していると分かりました。私のお父さんも土日に海で仕事をしています。魚釣りのお仕事です。お父さんは、いつも午前6時に集合してい

るのでいつも4時に起きています。私は、一緒に魚釣りに行って、お父さんの仕事を見ることがあります。お父さんは、お客様が魚を上げる時に、急いで網をもってきて、手伝っている姿がありました。それを見て、いつもかっこいいなと思います。

ある日、お父さんの釣りの仕事について行った時のことです。お客様へ「この魚は、小さい魚だから大きくなったら釣ろう」と言いながら海にかえしたのです。それを見て、お父さん、やさしいなと思いました。また、社会科で水産業のことを勉強した時、水産資源が無くならないように、魚をとるサイズにも制限があることがわかりました。環境のために、一人ひとりが自分にできることを工夫したり、きまりが決めてあつたりしながら、人は自然とともに、工夫して生きていることがわかりました。

2学期のはじめ、わたしたちは香々地少年自然の家に1泊2日の学習へ行きました。香々地では、サップや夜のつどい、文字探し、プラネタリウム、マイスピーンなどをしました。サップは、乗って一発で立てました。みんなに「すごい」と言われてすごく嬉しかったです。文字探しは、班でいろいろな山道を探検しました。マイスピーンづくりは、スプーンの口につけるところが木に、刺さらなかったのでとても大変でした。

いつもより不便な生活でしたが、山や海をいっぺんに楽しむことができ、国東半島の自然をたくさん感じることができました。

木が食料を産むというのも、まだまだ本当なのかなと不思議に思っていますが海も山も、そして人もみんなで助け合って生きているような気がして、すてきだなと思えました。だからこそ、人が山や海を汚したり、ざつにあつかったりしたらいけないと思います。



入選「ぼくのふるさと」

佐藤 冬生（杵築市立大田小学校 5年）

ぼくが住んでいる杵築市大田は、国東半島に位置し、自然が豊かなところです。

ぼくたちの学校は、毎年、米作りの学習をしています。地域の米作りにくわしい方に教えていただきながら、もみまき、田植え、稲刈りなどをしています。学校のすぐ前に田んぼがあるので、春から夏、そして秋にかけて、田んぼの様子が少しずつ変わっていくのを見ることができます。

今年は、総合的な学習の時間に、世界農業遺産の冊子をもらって読みました。さらに地域の方にきていただき、世界農業遺産について話を聞き、学習をしました。学習では、大田地域の地図の中にあるため池を見つけて水色でぬりました。ぬってみたら、大田には思ったよりたくさんそのため池があって、おどろきました。どうして、

こんなにたくさんの池を作ったのだろうと思いながら話を聞くと分かったことが二つありました。一つ目は、昔は米が主食だったので、子どもがたくさんいる家庭ではお米をたくさん作らないといけませんでした。そのため田んぼをたくさん作ったのです。しかし、田んぼが増えると今度は米作りに一番大切な水が足りなくなったりなのです。そこで、水をためておける池をたくさん作ったそうです。二つ目は、半島は降った雨がすぐに海に流れるため、水がたまりにくい特徴があることです。そのため池をたくさん作って水がいきわたるようにしたそうです。ぼくは、大田に池が多いのには、こんな深い訳があったことにおどろきました。昔の人の知恵はすごいと思いました。

話を聞いて分かったことはもう一つあります。それは、クヌギ林としいたけについてです。大田にも、しいたけの原木栽培をしているところがあるそうです。その原木はクヌギの木です。クヌギの木は、伐採して15年ほどで再生します。この学習をする前に映像を見ていたけど、改めてクヌギの再生力はすごいと思いました。しかもクヌギの木は薪として燃料にもなります。ぼくの家には薪ストーブがあるので、いつもたくさんの薪があります。ぼくたちの生活と世界農業遺産がつながっていることを初めて知って、もっとくわしく大田のことを知りたいなと思うようになりました。

ぼくたちは毎年米作りをして、無農薬のおいしいお米をたくさん収穫できています。稻が成長して、米が実っている様子を見ていたら、昔の人や地域の方の努力が見えてくるような気がしました。収穫したお米は、大田白ひげ田原神社で行われるどぶろく祭りで販売します。地域の方たちが笑顔で買ってくれることが、ぼくたちもとてもうれしいです。これからも、世界農業遺産に認定されている素晴らしい地域を大切にしながら、僕たちのがんばっている姿をたくさん見せて、地域の方と関わっていきたいです。



入選「大分農業いさん作文コンクール」

み むら たか のり
三村 隼典（豊後高田市立真玉小学校 5年）

農業いさんってなんだろう。ぼくは夏休みの宿題で、農業いさんについての作文をかくことになってからはじめて、豊後高田に農業いさんがあることを知りました。シイタケや、田染花が有名なことは、知っていましたが、それらがつながっていることは、おどろきました。

国東地域は雨が少ないので、耕作には、むいていない地域だったそうです。でも、それをかい決するために、昔の人はため池をたくさん作って、これまでしっかりと管理してきました。ため池を管理するための「池守り」という役割もあります。

シイタケさいばいに必要なクヌギ林もまた、森の保水性を高めるので、ため池と同じできちょうな給水源として、国東地域の水田農業を支えています。

シイタケと水田という、ちがう作物を育てているのに、昔からつながりがあって今でも、続いていることは、本当にすごいことだと思いました。

今はいじょうきしょうがつづいていて、雨があまりふらなかったり、とつ然大量の雨がふったりして、農業をしている人たちは、本当に大変だと思います。おばあちゃんの家の桜の木も、雨が少なすぎて一部、分かれてしまいました。クヌギ林がかれてしまったり、ため池がかれてしまったら、今までどおりの農業ができなくなって、国東の風景も変わってしまうのではないかと、とてもこわくなります。自然豊かなこの地域を守るためにも自分でできることからはじめていこうと思います。

まず、節電を心がけます。そのために、使わないところを消すことを心がけています。

つぎに、買い物にいくときには、レジぶくろをもらわないようにして、マイバックを持っています。習い事の試合の時によくコンビニにいくので、レジぶくろをもらわないようにお母さんに言おうと思います。

また、節水をするために、手を洗うときに使わないときは、水を止めることができます。

そしてこの作文で、わかったことは、ぼくのすむ豊後高田には将来に残すべきすばらしい自然いさんがあってそれを守るために、自分にもできることがあるということです。

自分たちにもできることがあることを教えていきたいです。

世界農業遺産（GIAHS）とは？

Globally 〈世界的に〉 Important 〈重要な〉 Agricultural 〈農業の〉
Heritage 〈遺産〉 Systems 〈システム〉

食糧の安定確保を目指す国際組織である、国際連合食糧農業機関（FAO）が2002年に開始したプロジェクトで、次世代に受継がれるべき伝統的な農業・農法とそれに関わって生まれた文化、景観、生物多様性などが一体となった世界的に重要な農業システム（林業及び水産業を含む。）を認定し、その保全と持続的な活用を図るものです。

世界農業遺産認定基準

【申請地域の特徴を評価する5つの認定基準】

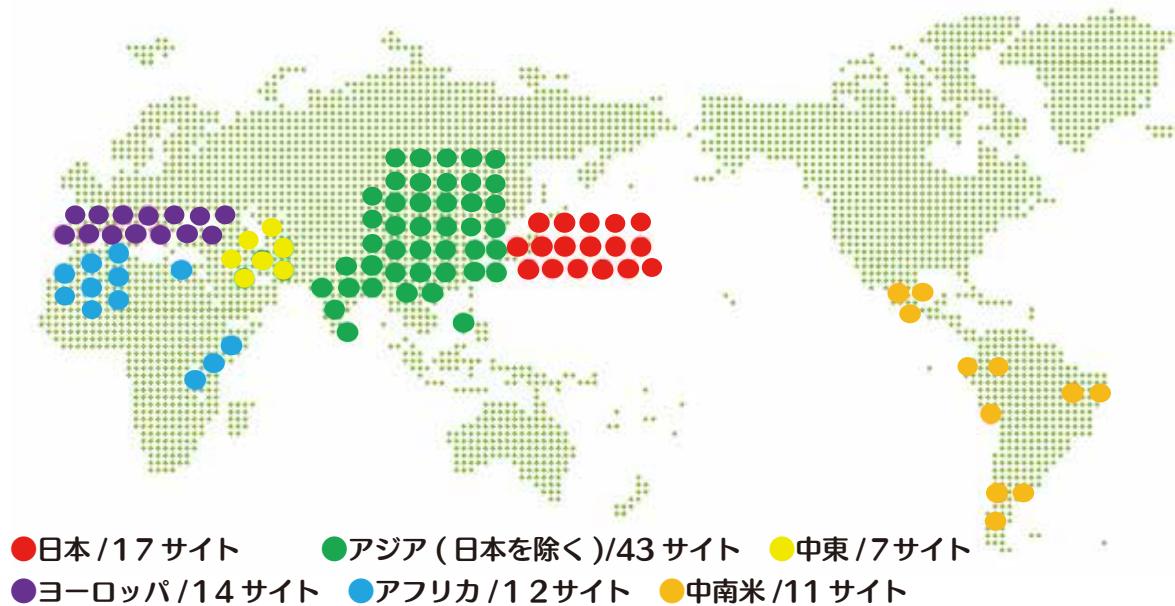
1.食料及び生計の保障	2.農業生物多様性	3.地域の伝統的な知識システム	4.文化、価値観及び社会組織	5.ランドスケープ及びシースケープの特徴
申請する農林水産業システムは、地域コミュニティの食料及び生計の保障に貢献するものであること。	申請する農林水産業システムは、食料及び農業にとって世界的に重要な生物多様性及び遺伝資源が豊富であること。	地域の伝統的な知識システムが、「地域の貴重で伝統的な知識及び慣習」、「独創的な適応技術」及び「生物相、土地、水等の農林水産業を支える天然資源の管理システム」を維持していること。	申請する農林水産業システムには、地域を特徴付ける文化的アイデンティティ、風土、資源管理や食糧生産に関連した社会組織が存在すること。	長年にわたる人間と自然との相互作用によって発達してきたランドスケープやシースケープを有すること。

※ランドスケープ：土地の上に農林水産業の営みを展開し、それが呈する一つの地域的まとまり。

※シースケープ：里海であり、沿岸海域で行われる漁業や養殖業等によって形成されるもの。

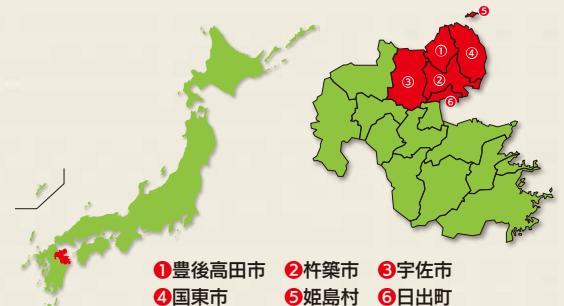
世界農業遺産認定サイト

世界の農業遺産認定サイト / 全104サイト（2025年11月現在）



クヌギ林とため池によって持続的に維持されている、日本一の原木しいたけ生産をはじめとする農林水産業システム

降水量が少なく耕作に必要な水が不足する地域に1,200以上のため池を造り、連携させた用水供給システムを確立し、水稻や国内唯一のシチトウイ栽培に計画的に配分している。また豊富にあるクヌギ林を利用した日本一の原木シイタケ栽培は水田農業を補い、森の保水性を維持し、ため池とともに貴重な給水源となり多様な生態系を育んでいる。先人たちが営々と作り上げてきたこのクヌギ林とため池による「循環型の農林水産業」の営みが世界的に価値のあるものとして認められた。



複数連携させた用水供給システム



複数連携式のため池群管理システム

国東市綱井地区では、6つのため池を連携させたシステムが江戸時代から今日まで運用されています。最上流にある高雄池(たかおいけ)は水稻の育成後期用として貯水され、それまでの期間は、中流域の3つと下流域の2つのため池が保水し合って給水します。



美迫池(みさこいけ)(国東市)

この地域では、用水供給システムを継続的に運用するための知識と経験の伝承が行われています。ため池に関する操作や管理を委ねられた「池守り(いけもり)」という役割があり、水田の水の受給の平準化と少ない水を効率よく公平に使うための取水管理が行われています。両子山頂から放射状に広がる河川のそれぞれで、このシステムが維持管理されていることが、この地域の水田農業の特徴です。

クヌギの循環システムと食料生産システム



クヌギ林の管理と原木しいたけ栽培

クヌギは、伐採しても切り株から萌芽して再生するため、木材資源が循環するという優れた特性を持っています。植林されたクヌギ林は、適正な管理を経て約15年後に原木しいたけ栽培に適したサイズとなります。成長した木は秋に伐採され、しいたけ生産へ供給されます。伐採後のクヌギの切り株からは翌春新芽が萌芽し、成長に必要な日照と養分を確保するため下草刈りが行われます。刈られた下草は、次世代の下草の成長を抑えつつ、ゆっくり分解しながらクヌギの成長を助ける養分となり、さらに、落ち葉やしいたけ栽培で使用を終えた原木も腐植してミネラル豊富な土となり、膨軟な保水層を形成します。また、萌芽から2~3年後には、成長を促進するために目の数を2~3本残すように整理を行い、やがてクヌギ林は伐採から約15年後に原木として利用できる大きさに再生します。



次世代への継承の取組

次世代継承教育事業

地域の自然環境や伝統文化、農林水産業、景観等についての探究的・協働的な学習を通して、地域が抱える現状と課題を明らかにし、その課題の解決に向けて主体的に考え方行動する力を育成するとともに、地域と自分とのかかわりを考えながら積極的に行動しようとする態度や郷土を愛する心を育てる。

(対象:国東半島宇佐地域の全小・中学校及び義務教育学校)

各小学校等の取組(全57校)

- 世界農業遺産について探究的に学ぶ
- 体験活動の支援
- 教材本の活用(世界農業遺産を知る)
- 高学年を対象とした作文コンクール
(興味関心を高める)



小学生向け教材本

各中学校等の取組(全23校)

- パンフレット、プロモーションビデオ活用した世界農業遺産の学習
- ゲストティーチャーを招聘した講話や体験活動
 - ※ゲストティーチャー:世界農業遺産に関わる地域の方
- 世界農業遺産に係る探究学習
(インタビュー、発信等)
- プレゼンテーション、レポート等で報告・発信
(大分っ子『未来創造プロジェクト』実践交流会における発表 等)
- 学校行事、学校ウェブサイト等で報告・発信



ゲストティーチャーを
招聘した講話や体験活動

高校生「聞き書き」事業

「しいたけ」や「シチトウイ」生産者など「地域の名人」を訪ね、その知恵や工夫、思いなどをインタビューし、「聞き書き」の手法を用いてまとめる。そのことを通じて世界農業遺産に認定された価値や故郷の素晴らしいを見いだす。

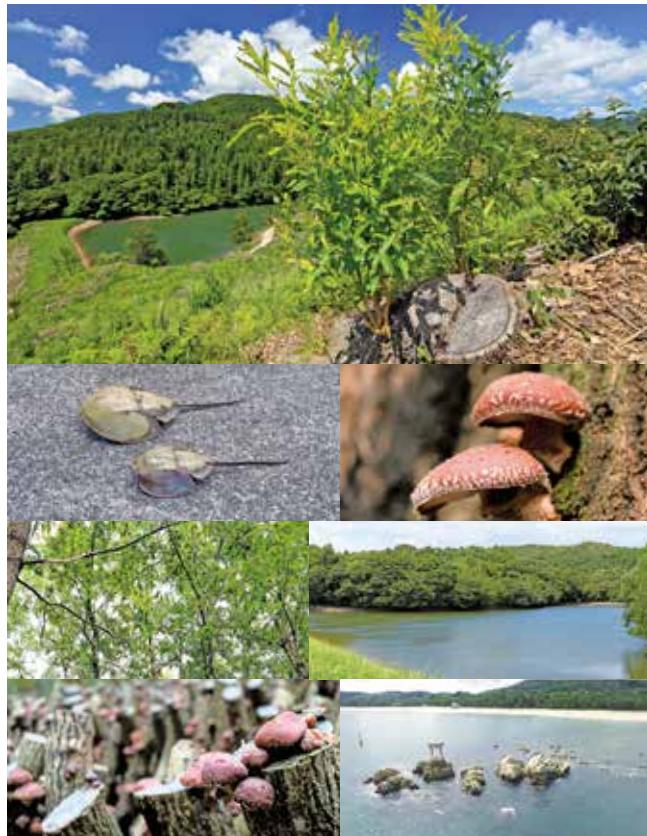
※聞き書き:話し手の言葉を録音し、一字一句すべてを書き起こしたのち、話し手の語り口で一つの文章にまとめる手法。「聞き書き甲子園」(主催:農林水産省、文部科学省、環境省、特定非営利活動法人共存の森ネットワーク等)で用いられている。



地域の名人への取材の様子



高校生「聞き書き」作品集



表紙・各作品冒頭写真紹介

- ① クヌギとため池
- ② カブトガニ
- ③ しいたけ
- ④ クヌギ林
- ⑤ ため池(美迫池)
- ⑥ ほど場
- ⑦ 奈多八幡宮

令和7年度
国東半島宇佐地域世界農業遺産
小学生作文コンクール入選作品集

令和8年1月 発行

発行者：国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会

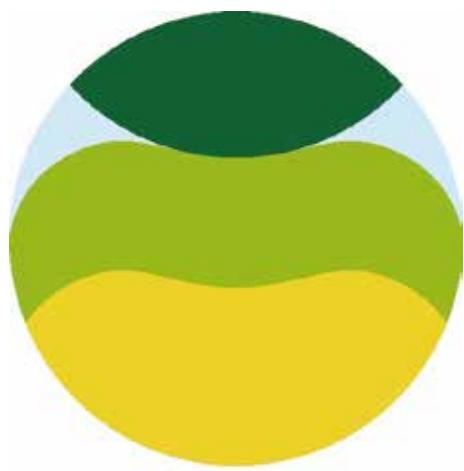
【事務局】大分県農林水産部地域農業振興課地域連携・世界農業遺産推進班

〒870-8501 大分県大分市大手町3-1-1 Tel097-506-3525

印 刷：株式会社明文堂印刷

禁無断転載 複写

※表紙及び作品の写真については、国東半島宇佐地域世界農業遺産写真コンテスト及び
国東半島宇佐地域世界農業遺産フォトコンテストの作品等です。



国東半島宇佐地域
世界農業遺産

Kunisaki Peninsula Usa GIAHS